

KAN
MON
KAN

平成22年11月期
第2四半期決算説明会



玄品グループ
株式会社 関門海

<http://www.kanmonkai.co.jp>

会社概要 / 玄品グループ

Company Summary

商号	株式会社 関門海 KANMONKAI Co.,Ltd.
設立	平成元年 5月
代表者	代表取締役会長兼社長 グループCEO 谷間 真
子会社	株式会社トドクック 株式会社だいもん 株式会社富士水産
事業内容 (セグメント)	・研究開発型外食事業 ・総菜宅配事業 ・食材卸その他の事業
従業員	192名(395名) ()内はグループ従業員数
店舗数	グループ全体:146店舗(平成22年5月末日現在) ・玄品ふく:118店舗 ・その他 : 28店舗
資本金	3億2,406万円(平成22年5月末日現在)

トピックス

Topics

上半期

下半期

平成21年12月

大阪黒門市場にて、とらふぐ、ワケあり商品の物販店舗オープン

平成22年3月

「玄品ふぐ」において、天然とらふぐの販売スタート

4月

「玄品ふぐ」との複合業態として、新業態
「焼津漁港直送 まぐろ専門 トロバカ」を東京田町にオープン

5月

事業開発部を新設、新規事業・海外事業の開発を開始

7月

対馬の地域振興を目的とした「旬味・ふく 対馬倶楽部」を
福岡中洲にオープン

「ヒートポンプ式ウォーターバブリング解凍機」を福島工業株式会社と
共同開発

「国産天然 凍鮮魚」の販売スタート

平成22年11月期上半期 決算概要

今後のグループ戦略

決算概要 / 損益計算書

Accounting Outline

(単位:百万円)

	当第2四半期 累計期間(実績)		当第2四半期 累計期間(計画)		前第2四半期 累計期間(実績)		増減	
	金額	百分比	金額	百分比	金額	百分比	前年比	計画比
売上高	5,432	100.0%	5,700	100.0%	6,469	100.0%	16.0%	4.7%
研究開発型外食事業	3,742	68.9%	3,850	67.5%	4,243	65.6%	11.8%	2.8%
総菜宅配事業	1,617	29.8%	1,750	30.7%	1,967	30.4%	17.8%	7.5%
その他の事業	72	1.3%	100	1.8%	258	4.0%	71.9%	27.2%
売上原価	2,072	38.2%	2,200	38.6%	2,599	40.2%	20.3%	5.8%
売上総利益	3,360	61.8%	3,500	61.4%	3,870	59.8%	13.2%	4.0%
販売費及び一般管理費	2,893	53.3%	2,950	51.8%	3,434	53.1%	15.7%	1.9%
営業利益	466	8.6%	550	9.6%	436	6.7%	6.9%	15.1%
営業外収益	18	0.3%	10	0.2%	20	0.3%	6.9%	87.5%
営業外費用	51	0.9%	60	1.1%	51	0.8%	1.5%	14.6%
経常利益	434	8.0%	500	8.8%	404	6.3%	7.3%	13.2%
特別利益	12	0.2%	-	-	2	0.0%	395.6%	-
特別損失	72	1.3%	50	0.9%	75	1.2%	3.8%	45.6%
税金等調整前当期純利益	373	6.9%	450	7.9%	331	5.1%	12.7%	17.0%
法人税等	248	4.6%	210	3.7%	164	2.5%	50.9%	18.4%
四半期純利益	124	2.3%	240	4.2%	166	2.6%	25.1%	47.9%

1 連結売上高
 ・計画比 4.7%
 ・前年比 16.0%
 研究開発型外食事業は、既存店売上高12.5%の減少が要因
 総菜宅配事業は新規顧客開拓の不振が要因

2 売上総利益率
 ・計画比 +0.4ポイント
 ・前年比 +2.0ポイント
 と計画通り
 業務用酒販事業の撤退により改善

3 販売費及び一般管理費
 ・計画比56百万円マイナス
 ・前年比540百万円マイナス
 広告宣伝費、人件費等のコストコントロールにより減少

4 営業利益
 ・計画比83百万円マイナス
経常利益
 ・計画比65百万円マイナス

5 特別損失 72百万円

固定資産売却損46百万円、
 富士水産のたな卸資産廃棄損
 21百万円

6 四半期純利益
 ・計画比 115百万円

決算概要 / セグメント別

Accounting Outline

(単位:百万円)

	当第2四半期累計期間			前第2四半期累計期間			増減	
	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益
研究開発型外食事業	3,742	656	17.5%	4,243	672	15.8%	501	16
玄品ふぐ事業	2,872	639	22.3%	3,159	669	21.2%	286	29
その他の業態	869	17	2.0%	1,084	3	0.3%	215	13
総菜宅配事業	1,617	3	0.2%	1,967	24	1.2%	349	21
その他の事業	72	18	25.7%	258	17	4.3%	185	0
消去又は全社	-	205	-	-	229	-	-	23
合計	5,432	466	8.6%	6,469	436	6.6%	1,036	30

1 研究開発型外食事業

玄品ふぐ

- ・売上高は、既存店売上高11.9%の減少
- ・営業利益率 + 1.1ポイントの改善

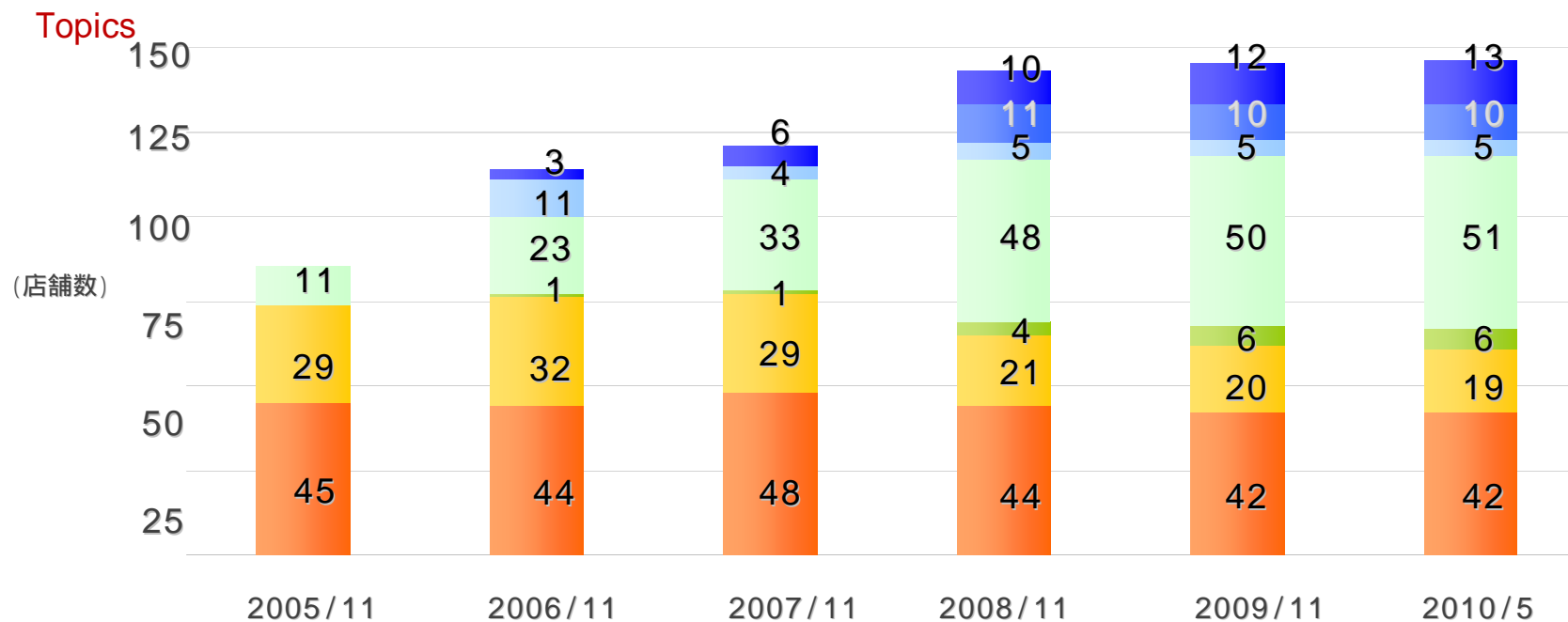
その他の業態

- ・売上高は、回転寿司「すし兵衛」の計画比未達が主な要因

2 総菜宅配事業

- ・新規顧客の開拓が計画通り進まなかった事により、売上高は未達ではあるが損失は前期より圧縮

トピックス / 店舗推移グラフ



項目	2005/11	2006/11	2007/11	2008/11	2009/11	2010/5	前期末比
玄品ふぐ	85	100	111	117	118	118	±0
関東直営	45	44	48	44	42	42	±0
関西直営	29	32	29	21	20	19	1
その他直営		1	1	4	6	6	±0
FC	11	23	33	48	50	51	+1
玄品以蟹茂		11	4	5	5	5	±0
すし兵衛				11	10	10	±0
その他		3	6	10	12	13	+1
合計	85	114	121	143	145	146	+1

決算概要 / 貸借対照表

Accounting Outline

(単位:百万円)

	当第2四半期末		平成21年11月期末		増減
	金額	構成比	金額	構成比	
流動資産	3,403	46.0%	4,202	49.8%	799
現金及び預金	861	11.6%	1,063	12.6%	202
売掛金	441	6.0%	614	7.3%	172
商品及び製品	1,691	22.9%	1,881	22.3%	190
仕掛品	132	1.8%	161	1.9%	29
原材料及び貯蔵品	64	0.9%	142	1.7%	77
その他	243	3.3%	368	4.4%	125
貸倒引当金	31	0.4%	28	0.3%	2
固定資産	3,997	54.0%	4,233	50.2%	235
有形固定資産	2,283	30.9%	2,460	29.2%	176
建物及び構築物	1,615	21.8%	1,699	20.1%	84
機械装置及び運搬具	83	1.1%	97	1.2%	13
土地	412	5.6%	462	5.5%	50
その他	172	2.3%	200	2.4%	28
無形固定資産	562	7.6%	602	7.1%	40
のれん	479	6.5%	503	6.0%	23
その他	82	1.1%	99	1.2%	16
投資その他の資産	1,152	15.6%	1,170	13.9%	18
資産合計	7,401	100.0%	8,436	100.0%	1,034

1 商品及び製品 1,691百万円

主に「玄品ふぐ」で使用
するとらふぐ。
在庫消化、在庫投資の圧縮
により190百万円の減少

2 有形固定資産 2,283百万円

減価償却、固定資産譲渡等により
前期末比176百万円減少

決算概要 / 貸借対照表

Accounting Outline

(単位:百万円)

	当第2四半期末		平成21年11月期末		増減
	金額	構成比	金額	構成比	
流動負債	3,638	49.2%	4,193	49.7%	554
買掛金	261	3.5%	301	3.6%	40
短期借入金	967	13.1%	1,693	20.1%	725
1年以内返済予定長期借入金	1,649	22.3%	1,591	18.9%	57
未払金	346	4.7%	473	5.6%	127
未払法人税等	232	3.1%	35	0.4%	197
未払消費税等	63	0.9%	3	0.0%	59
賞与引当金	20	0.3%	-	-	20
その他流動負債	98	1.3%	94	1.1%	4
固定負債	2,647	35.8%	3,195	37.9%	548
長期借入金	2,427	32.8%	2,939	34.8%	512
その他固定負債	220	3.0%	255	3.0%	35
負債合計	6,286	84.9%	7,388	87.6%	1,102
純資産	1,115	15.1%	1,047	12.4%	67
資本金	324	4.4%	324	3.8%	0
資本剰余金	433	5.9%	433	5.1%	0
利益剰余金	620	8.4%	555	6.6%	65
自己株式	287	3.9%	287	3.4%	0
その他	26	0.4%	23	0.3%	2
負債・純資産合計	7,401	100.0%	8,436	100.0%	1,034
有利子負債	5,043	68.1%	6,224	73.8%	1,181

1 有利子負債 5,043百万円

主に短期借入金、長期借入金の減少により、前期末比1,181百万円の減少

決算概要 / キャッシュ・フロー計算書

Accounting Outline

(単位:百万円)

	当第2四半期	前第2四半期	増減額	前期末
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,052	284	768	288
税金等調整前当期純損益	373	331	42	60
減価償却費等	163	206	43	420
たな卸資産の増減額	296	36	260	88
仕入債務の増減額	37	109	72	145
未払金の増減額	127	231	103	204
法人税等の支払額及び還付額	53	171	225	372
その他	330	222	107	13
投資活動によるキャッシュ・フロー	10	5	16	111
有形固定資産の取得による支出	37	105	68	169
その他	26	110	84	57
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,244	373	870	370
短期借入金の増減	725	270	455	242
長期借入金の増減	455	24	479	341
自己株式の取得による支出	0	101	101	101
配当金の支払額	58	59	0	118
その他	4	33	37	6
現金及び現金同等物の増減額	202	83	118	29
現金及び現金同等物の期首残高	1,063	1,092	29	1,092
現金及び現金同等物の期末残高	861	1,009	148	1,063

1 営業活動によるキャッシュ・フロー
1,052百万円(前年は284百万円)

たな卸資産の減少額 296百万円

法人税等の支払額及び還付額 53百万円

2 投資活動によるキャッシュ・フロー 10
百万円(前年は5百万円)

有形固定資産の取得による支出 37百万円

有形固定資産の売却による収入 27百万円

3 財務活動によるキャッシュ・フロー
1,244百万円(前年は 373百万円)

有利子負債の減少、配当金の支払による

計画 / 連結損益計算書

Plan

(単位:百万円)

	前期(実績)		当期修正計画			
	金額	百分比	金額	百分比	増減	前期比
売上高	10,816	100.0%	9,700	100.0%	1,116	10.3%
研究開発型外食事業	6,771	62.6%	6,100	62.9%	671	9.9%
総菜宅配事業	3,639	33.6%	3,350	34.5%	289	8.0%
その他の事業	405	3.7%	250	2.6%	155	38.3%
売上原価	4,387	40.6%	3,800	39.2%	587	13.4%
売上総利益	6,429	59.4%	5,900	60.8%	529	8.2%
販売費及び一般管理費	6,299	58.2%	5,630	58.0%	669	10.6%
営業利益	130	1.2%	270	2.8%	139	107.5%
営業外収益	32	0.3%	20	0.2%	12	37.9%
営業外費用	112	1.0%	110	1.1%	2	2.3%
経常利益	49	0.5%	180	1.9%	130	261.5%
特別利益	17	0.2%	—	—	17	100.0%
特別損失	128	1.2%	110	1.1%	18	14.1%
税金等調整前当期純利益	60	0.6%	70	0.7%	130	—
法人税等	90	0.8%	50	0.5%	40	44.9%
当期純利益	151	1.4%	20	0.2%	171	—

計画 / セグメント

Plan

(単位:百万円)

	当初計画		今回計画		前期(実績)		前年増減		前年対比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
研究開発型外食事業	6,200	680	6,100	645	6,771	529	671	115	9.9%	+ 21.9%
玄品ふぐ	4,400	660	4,350	630	4,796	538	446	91	9.3%	+ 17.0%
その他業態	1,800	20	1,750	15	1,974	8	224	23	11.4%	—
総菜宅配事業	3,450	70	3,350	20	3,639	3	289	23	8.0%	—
その他の事業	350	30	250	25	405	23	155	1	38.3%	+ 6.7%
合計	10,000	780	9,700	690	10,816	549	1,116	140	10.3%	+ 25.6%
全社共通費用	—	450	—	420	—	419	—	0	—	+ 0.2%
連 結	10,000	330	9,700	270	10,816	130	1,116	139	10.3%	+ 107.5%

平成22年11月期上半期 決算概要

今後のグループ戦略

今後のグループ戦略 / 概要

Strategy

1 人材育成の徹底・社員意識改革

全ての社員が「イノベーション」に取り組む集団へ

2 玄品ふぐ+ 戦略

「玄品ふぐ」をさらなる発展フェーズへ

3 トドクックのイノベーション

現場のイノベーションから顧客創造へ

4 事業開発部の創設

総合力を生かした新規事業開発と地域・海外戦略



3年で売上倍増を目指す

社員意識改革・人材育成の徹底

全ての社員が「イノベーション」に取り組む集団へ

戦略やビジネスモデルでは企業は成長できない



企業 = 「人」
社員の意識改革

モチベーション管理主体の人材育成



成果・自己実現へ
向かう人材の育成



体系的なスキル分析

キャリアプラン

教育研修

玄品グループの存在意義、自らのミッションなどの徹底的な理解



世界で通用する人材となる

全ての社員が「イノベーション」に取り組む集団にする

「玄品ふぐ+」戦略

「玄品ふぐ」をさらなる発展フェーズへ

玄品ふぐ売上ダウン要因の概観

過去の成功要因

価格競争力、エンターテインメント性

オペレーションの簡素化、チェーン展開に適したビジネスモデル

売上ダウン要因

価格の魅力、エンターテインメント性の相対的減退

社会の変化への対応力のある自立した人材の減少

現在の玄品ふぐの強みを活かし、新たな要素を加える

玄品ふぐ + 新たな業態

エンターテインメント性の高い宴会企画

「玄品ふぐ」 「玄品」

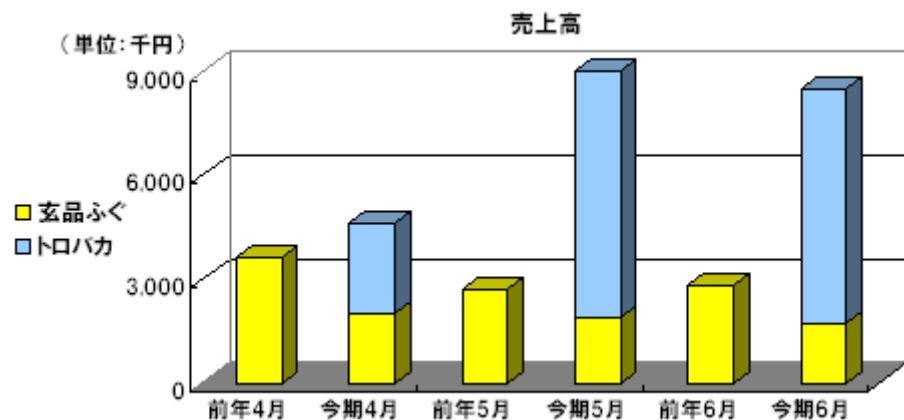
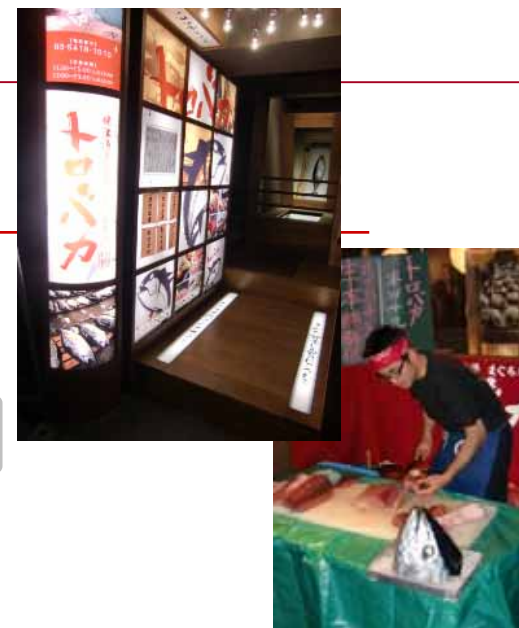
「玄品ふぐ + トロバカ」戦略

「玄品ふぐ」をさらなる発展フェーズへ

玄品ふぐ + 新たな業態

「焼津漁港直送 まぐろ専門 トロバカ」

「玄品ふぐ 田町の関」2F部分を改装してオープン



キッチンの共有化
オペレーションの共有化

オープン後2ヶ月間、売上高3倍以上、
年間売上高倍増見込

業態競争力が格段に向上



再度拡大戦略へ

「玄品ふぐ+」戦略

「玄品ふぐ」をさらなる発展フェーズへ

エンターテインメント性の高い宴会企画

「ふぐを食する」魅力の相対的減退

「玄品ふぐ」での宴会の満足度を徹底的に上げる

 競争力の飛躍的な向上

「玄品ふぐ」から「玄品」へ

「玄品ふぐ」のコンセプト・メニューを変更し、店舗名「玄品」に

 年間通じた売上獲得を目指す事ができる業態へのリノベーション



「トドクック」のイノベーション

現場イノベーションから顧客創造へ

現状の業績

コストダウンにより黒字化を達成したものの、現状利益の確保が困難に

経営の問題点

現場の状況を踏まえた戦略の欠如

現場イノベーション

商品改善

全商品を味・品質をチェックし、味の向上と品質の統一化を実現

物流改革

物流フローの簡素化により、顧客獲得可能エリアの拡大・作業時間の短縮化・品質の向上・物流アウトソーシングを実現

戦略商品投入

消費頻度の高い商品群や、付加価値の高い商品群、贅沢品の投入による差別化・競争力の向上・客単価の上昇を実現



顧客創造のためのマーケティングフェーズへ

事業開発部の創設

総合力を生かした新規事業開発と地域・海外戦略



技術開発と調達力を活かした新規事業

独自技術同士が融合した解凍機共同開発事業

独自技術と調達力が融合した『凍鮮魚』事業



公的機関を巻き込んだ事業活動

地域振興を目指した新規業態『対馬倶楽部』

立地競争力のある販売場所の獲得



海外進出とアライアンス戦略

アライアンス先と共同で中国・ハワイにおける事業開発を開始



長期的な視点に立った玄品グループ全体の成長